

# 近畿の自然を考える

～展示・スタンプラリー・自然フォーラム～

## 報告書

2005.11.19

---

きんき環境館（近畿環境パートナーシップオフィス）

---

## < 目次 >

1 . 開催の主旨 . . . . .	2
2 . 開催概要 . . . . .	2
3 . 広報活動 . . . . .	4
4 . 展示・スタンプラリー . . . . .	6
5 . 自然フォーラム . . . . .	8
6 . 考察 . . . . .	12

巻末資料 1 準備会配布資料

巻末資料 2 近畿の自然を考えるチラシ

巻末資料 3 掲載記事

## 1 . 開催の主旨

2005 年は京都議定書の発効により、ますます環境問題が注目されています。こうした中、環境省などが行っている「チームマイナス 6%」や「我が家の環境大臣事業」に代表されるように、家庭生活の中から環境を守る動きが盛んに広報されています。また、地球温暖化問題は気候変動の問題や新エネルギーによる解決を目指した話題として語られることが多く、京都議定書が発効した今年度は昨年度に比べて顕著になっています。こうした現状において、やや軽視されている話題が自然環境問題全般です。京都議定書でも温室効果ガス排出量の削減のうち、3.9%を森林による吸収としながら、森林を初めとした自然への視点は決して充分ではありません。

たしかに、自然環境の保全是、開発反対運動などを契機にこれまで長い間注目されてきた分野でした。その結果、自然の保全や自然保護活動、トラスト運動など、様々な活動を行う市民団体も増え、現在では多くの人々が自然に関わっています。しかし、自然に関わる人の多くは、向き合っている地域の個別の自然とのみの繋がりにとどまっているように思われます。公害問題や開発問題から地球環境問題への転換の中で、地域の自然を理解するだけでなく、より広い視野を持って活動することが求められています。

そこで、きんき環境館では、近畿 2 府 4 県という広い自然環境（近畿の自然）をテーマとし、きんき環境館のパートナーシップ団体等による展示と自然フォーラムを開催しました。展示では自然と関わっている様々な団体の展示を通して、様々な自然環境があり、それぞれの自然環境に応じた人々との関わり方があることを紹介しました。自然フォーラムでは、近畿の自然に関わって活動を行っている国の機関、研究者、NPO 団体など、各セクターから近畿地域における自然の状況を話題提供してもらい、その後フロアとの意見交換を通して、自然の現状把握と、これからの自然のあり方を考えていく第 1 歩としました。

また、今回は、環境省近畿地方環境事務所（以下、「近畿事務所」とする）の設置に伴う取組状況を近畿事務所会議室で展示しました。同じビル内にある生活情報ぶらざ（大阪府消費生活センター）とも、今回は初めて共同で開催することとなり、生活情報ぶらざでは消費者団体による自然に関する展示を行いました。

なお、これら同時開催の 3 カ所を結ぶスタンプラリーを開催することにより、これまで課題であった施設間連携と集客の向上を図りました。

## 2 . 開催概要

まずは、近畿の自然を考えるの開催まで概要を報告します。

### (1) 基本情報

近畿の自然を考えるは、以下の内容で実施しました。

開催名称：近畿の自然を考える ～展示・スタンプラリー・自然フォーラム～  
日 時：2005 年 10 月 4 日（火）～14 日（金）（8 日～10 日を除く）

展示：10月4日（火）～14日（金）（8日～10日を除く）10：00～17：30

スタンプラリー：展示と同じ

自然フォーラム：10月14日（金）17：50～20：10

会場：きんき環境館、生活情報ぶらざ、近畿地方環境事務所会議室

展示：きんき環境館、生活情報ぶらざ、近畿地方環境事務所会議室

スタンプラリー：きんき環境館、生活情報ぶらざ、近畿地方環境事務所会議室

自然フォーラム：OMMビル2階会議室1～3

対象：一般市民、自然環境関連の自治体部署、NGO/NPO 団体、学術関係、企業関係

参加費：無料

主催：きんき環境館、環境省近畿地方環境事務所、大阪府消費生活センター

後援：国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所、

農林水産省近畿農政局

運営協力：（特活）大阪府民環境会議（OPEN）（財）関西消費者協会

## （2）開催スケジュール

近畿の自然を考えるは表1のようなスケジュールで実施しました。

表1 近畿の自然を考えるスケジュール

日付	内容	備考
7月22日（金）	近畿事務所へ企画の提案	
7月26日（水）	企画内容について近畿事務所と打合せ	
7月27日（水）	大阪府、関西消費者協会へ企画の相談	
8月19日（金）	展示参加団体募集	きんき環境館の展示
8月30日（火）	大阪市交通局へ広報依頼	
9月1日（木）	準備会の開催	
9月7日（水）	近畿事務所、生活情報プラザ打ち合わせ	
9月14日（水）	自然フォーラムパネラー確定	
9月16日（金）	チラシによる広報開始	
9月27日（火）	展示準備スタート	
10月4日（火）	展示・スタンプラリースタート	
10月9日（日）	自然フォーラム毎日新聞掲載	
10月14日（金）	自然フォーラム開催	最終日
10月21日（金）	参加団体などの撤収終了	

きんき環境館での展示企画のため、参加団体は基本的にきんき環境館のパートナーシップ団体（当時約50団体）の中から募集し、きんき環境館の運營業務を行っている特定非営利活動法人大阪府民環境会議が運営協力しました。募集の結果、9団体が参加し、出展することとなりました。また、きんき環境館とこれまでにつながりのあった「森と水の源流館」と、自然フォーラムのパネラーや後援名義で開催の協力をしていただいた「国土交

通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所」にも出展していただきました（表 2 参照）。

表 2 展示に参加した団体

団体名	準備会	パートナーシップ団体
せいわエコ・サポーターズクラブ	参加	
（特活）総合教育研究所		
大阪府ネイチャーゲーム協会	参加	
（特活）とよなか市民環境会議アジェンダ 21	参加	
（社）大阪自然環境保全協会	参加	
（財）公害地域再生センター（あおぞら財団）	参加	
（特活）日本ウミガメ協議会		
吹田自然観察会		
櫻守の会		
森と水の源流館 （財）吉野川紀の川源流物語	参加	
国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所		

（団体名は順不同）

9月1日（木）には、準備会を開催し、6団体7人（表2参照）が参加しました。準備会では、参加者による簡単な自己紹介と団体紹介の後、きんき環境館より開催に関する説明と、6月に開催した「きんき環境館エコライフフェア」の様子を紹介し、展示等のイメージをつかんでいただきました（詳しくは巻末資料1を参照）。また、展示内容については、参加団体の活動しているフィールドや活動内容について紹介していただき、内容を限定しないと説明しました。各団体の展示場所については、希望スペースを参加団体より出していただき、場所については基本的にきんき環境館に一任することとなりました。

準備会以降、広報活動を展開するとともに、展示については近畿事務所や生活情報ばらざと適宜協議しながら、自然フォーラムについては各パネラーと調整しながら開催へと至りました。

### 3 . 広報活動

近畿の自然を考えるの広報は、チラシ（巻末資料2参照）の配布によるもの、Web（メールやインターネット）を活用したもの、その他の主に3通りの方法で行いました。

#### （1）広報チラシ

チラシは、パネラー確定後すぐに印刷・発送作業を行いました。チラシは約6500枚印刷し、きんき環境館の別事業の郵送に同封することを中心に、9月16日（金）から表3のように郵送で広報しました。

表3 チラシ郵送先

拠点施設	70 ヲ所	約 460 枚
自治体	317 ヲ所	約 630 枚
NGO / NPO 関係	264 ヲ所	約 900 枚
企業	136 ヲ所	約 140 枚
大学関係	64 ヲ所	約 130 枚
その他	97 ヲ所	約 750 枚
合計	948 ヲ所	約 3010 枚

表4 チラシ配布・設置先

配布イベント・設置先	枚数	備考
近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所	50 枚	
農林水産省近畿農政局	10 枚	
生活情報ぷらざ	1200 枚	設置・郵送等
近畿事務所（旧自然保護事務所関係）	340 枚	
近畿事務所（旧調査官事務所関係）	280 枚	
タウンミーティング in 兵庫	80 枚	9月26日（月）
大阪自然環境保全協会	1365 枚	情報紙発送に同封
合計	3325 枚	

また、表4のように、各関係へチラシの配布・設置に協力いただきました。それ以外に、開催期間の途中からですが、きんき環境館などが入っている OMM ビルのご好意により、各フロアの掲示板等にチラシを掲示していただきました。

## （2）Web

Web を活用した広報について、きんき環境館のホームページでは複数カ所に掲載しました。メールでは、地球環境パートナーシッププラザ（GEIC）が発行しているメールマガジン「めるまが」（9月14日発行分、約2600部）への投稿や、日本最大級のNPO/NGO メールマガジン「NPO/NGO Walker」（10月5日発行分、約3700部）への投稿を行いました。これらの投稿に関連して、日本財団の公益コミュニティサイト「CanPan」でも開催告知が掲載されました。

また、近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所には、事務所が所有しているメーリングリストでも広報を協力いただきました。

## （3）その他

その他の広報として、今回は生活情報ぷらざ（大阪府消費生活センター）と共同で開催するということもあり、大阪府が発行している暮らしの情報誌「美しい暮らし」の10月号（毎月25000部発行）に開催の告知記事を掲載していただきました（巻末資料3参照）。また、10月9日（日）の毎日新聞（朝刊）の大阪版のページに自然フォーラム開催の告知記事を

掲載していただきました（巻末資料3参照）。

なお、今回は大阪市営地下鉄で掲載されている「沿線の行事」等への掲載依頼も行いましたが、今回は掲載されませんでした。

## 4. 展示・スタンプラリー

### (1) 展示の様子

展示スペースは館内両側の環境 BOX に設置しているパネル前と、館内中央に設置したパネルボード、廊下側のガラス面側の一部でした。6月に開催したエコライフフェアでは、今回よりも参加団体が少なかったこともあり、館内の展示が少しさびしく、また、来館者の滞在時間も短かった反省がありました。そこで、今回は上記のように館内のスペースをほとんど使用し、展示による賑わいを出しました。

環境 BOX のパネルでは、上段と中段の3列計6枚のパネルと、パネルの前に設置したテーブル1本（180cm×60cm）を基本セットとし、パネルボードではボード1枚の片面とテーブル1本を基本セットとしたうえで、準備会で増減等の要望を求めました。展示方法については、エコライフフェアの展示方法を紹介の上で、自由に展示してもらうことをお願いしました。その結果、1団体が大型プリンターによるパネル出力を行い、5団体が既存のパネル等を設置し、5団体が写真やチラシ、資料や模造紙など（既存のパネル以外）を設置しました。なお、展示期間中は、普段と違うことがわかるように、廊下側のガラス面に横断幕（3枚）とパネル（4枚）を設置しました。

また、同時開催を行った1階の生活情報ぶらざでは、大阪府内の約10の消費者団体がそれぞれ関心のあるテーマでパネル展示を行いました。同じく8階の近畿事務所では、再編統合した新事務所の業務概要などについてパネル展示を行いました。きんき環境館に設置した横断幕とパネルは、生活情報ぶらざと近畿事務所にも設置し、共同開催イベントということをアピールしました。

展示の様子は写真1～写真4です。



写真1 館内の様子



写真2 館内の様子



写真 3 館内の様子



写真 4 廊下側から見た様子



写真 5 生活情報ぶらざの展示の様子



写真 6 近畿事務所の展示の様子

## (2) スタンプラリーの様子

スタンプラリーは、展示期間中に展示を行っている各会場にスタンプラリーポイントを設置し、所定の用紙に各会場 1 つずつスタンプを集めれば、用紙と交換で景品をプレゼントしました。スタンプラリーは、スタンプを集めるために各会場をまわることで、3ヶ所すべての展示を見てもらえるということが主な目的でした。景品は近畿事務所より「キャリングボトルケース」(ペットボトルホルダー)を提供いただき、先着 200 人(200 個)を限度に行いました。

景品の交換は5階のきんき環境館のみだったため、5階へは最後に訪れる来館者が多く、スタンプラリーの参加者のほとんどが展示も見て帰っていました。なお、各会場のスタンプラリーポイントの様子は、写真 7～写真 9 です。



写真 7 きんき環境館のスタンプラリー

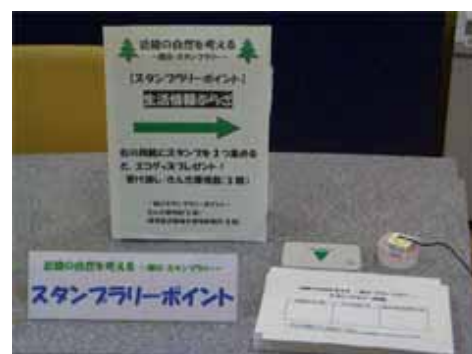


写真 8 生活情報ぶらざのスタンプラリー



写真9 近畿事務所のスタンプラリー

### (3) 来館者

期間中のきんき環境館の来館者数は表6の通りです。期間中(8日間)の来館者は202人、1日平均で約25人でした。スタンプラリーの参加は140人で、1日平均で約17人でした。それ以外に、8日(土)は生活情報ぶらざと近畿事務所が閉まっているため、イベントの期間外でしたが、数名の来館者があり、展示を見て回ってました。期間中、もっとも来館者が多かったのは、自然フォーラムを開催した14日(金)の48人で、次に多かったのは開催初日の40人でした。一方、もっとも来館者の少なかったのは11日(火)の8人でした。主な傾向として、期間の初めと終わりが多く、中頃はやや中だるみした感がありました。

来館者層としては、自然に関心のある人以外にも、生活情報ぶらざの関係でイベントを知ってきた人や、ビル内等でイベントを知って来られた人など様々でした。また、出展団体のうち半数程度が展示期間中に様子を見に来るなどもありました。

なお、生活情報ぶらざ、近畿事務所での来場者数は人員配置の都合上、カウントしませんでした。

表6 近畿の自然を考える 展示・スタンプラリー来館者人数

日(曜日)	4日(火)	5日(水)	6日(木)	7日(金)	8日(土)
来館者数	40人(31個)	25人(19個)	22人(13個)	20人(13個)	5人<参考>
日(曜日)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)	合計
来館者数	8人(2個)	14人(11個)	25人(19個)	48人(32個)	202人(140個)

合計人数は、8日(土)の参考人数を除いたもの

カッコ内の個数は、スタンプラリーの景品が出た数

## 5. 自然フォーラム

### (1) 自然フォーラム概要・結果

近畿の自然を考えるの最終日に自然フォーラムを開催しました。会場は、きんき環境館と同じOMMビル2階の貸会議室(会議室1~3)を利用しました。参加者は68人でした(事前申込52人、当日参加16人)。自然フォーラムの様子は、写真10~写真11です。

なお、自然フォーラムのプログラムは以下の通りです。

- 
- 17:50 開会  
あいさつ 環境省近畿地方環境事務所長
- 18:00 事例報告  
「近畿地方における自然保護行政について」  
環境省近畿地方環境事務所 野生生物課長 徳田 裕之 氏  
「大阪湾の環境について」  
国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所  
海の再生環境技術センター長 中川 富士男 氏  
「竹林の現状と里山再生」  
京都大学大学院地球環境学堂助教授 柴田 昌三 氏  
「昆虫から見た人の暮らしと身近な自然」  
橿原市昆虫館学芸員 日比 伸子 氏  
「タンポポ調査から見た自然環境保全」  
(社)大阪自然環境保全協会理事 木村 進 氏
- 19:40 質疑応答  
20:10 閉会
- 



写真 10 事例報告の様子



写真 11 質疑応答の様子

## (2) 自然フォーラムの内容

自然フォーラムで、各パネラーの報告内容と会場からの質疑は、主に以下のような内容でした。

### 「近畿地方における自然保護行政について」

近畿の自然の現状、環境省が取組んでいる内容と外来生物法について説明でした。近畿地方の現在の植生について、植林地以外だと、二次林・田・畑が約 50%、市街地 12%、自然林 4%、里山(二次林)が 35%となっています。カモシカの分布は、京都(西端)、滋賀、奈良、和歌山で、ツキノワグマの分布は、兵庫、京都、福井、奈良、和歌山で約 200 頭が棲息しています。ニホンザルおよびニホンジカは、ほとんどの府県で棲息して

います。

環境省が国立公園として、瀬戸内海を昭和9年に初めて指定しました。アメリカでは、すべてが国有地ですが、日本では公有地と私有地が混在しています。国立公園の管理には今年度よりアクティブレンジャー制度を導入しました。希少種としては、アユモドキが亀岡市、岡山県の河川天然記念物として指定されています。また、ゴイシツバメシジミは、ここ4年間発見されていません。

外来生物については、ジャワマングース、カミツキガメ、アライグマ等が1次指定として、37種が指定されています。影響としては、在来種の絶滅、交雑等の日本固有の生態系への影響、人の生命・身体への影響、農林水産業への影響などがあります。法の罰則としては、個人の場合懲役3年以下もしくは300万円以下の罰金、法人の場合1億円以下の罰金となっています。

### 「大阪湾の環境について」

大阪湾は、開口部が2ヶ所ある閉鎖性水域で、後背地は関東平野の約5分の1と狭いが、反対に人口密度は3倍で、河川流入量が多く埋立地が多くなっています。関西国際空港ができて、都道府県の面積は46位となりました。直立護岸が多く、浅場が少ない状況で、水深5m以下が1%、10m以下が10%となっています。干潟は約15haで東京湾の1,540haに比べてはるかに少ないです。2005年9月6日に甲子園浜で青潮が観察されました。1970年頃からサルボウガイ(赤貝の仲間)の収穫がなくなり、漂着ごみは、西側の浜に打ち上げられています。

そこで、大阪湾に面している府県および政令指定都市と国の近畿地方の出先機関が、大阪湾の再生に向けて「大阪湾再生行動計画」を策定し、再生に向けた市民参加の取り組みを実施しています。私の所属する海の再生環境技術センターもこの4月に発足しました。具体的な取り組みとして、浜寺水路における「コンブの森づくり」(コンブの芽を植えたプラスチックをボランティアダイバーが水路に沈める)、「アマモ造成による都市型ダイビングスポットづくり」(ボランティアダイバーによる植付け、魚の産卵場・幼魚の避難場としても利用可)、「ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」(今年2月に開催、40団体144名参加)などを行っています。

### 「竹林の現状と里山再生」

最近では里山に薪炭林というイメージが無く、広義の意味で里地・里山が用いられることが多くなっています。現在では適切に管理された里地の方が生物多様性に富んでいます。里山の中での竹林は、竹材として利用(林野庁統計)とタケノコ生産(農水省)で重要な存在でした。

植物としての竹は、イネ科植物であり、地上で最も進化した植物といえます。日本の竹類はササが76%を占め、マダケ、モウソウチク、ハチクの3種が大半を占めています。タケ類の地下茎が伸長するのは、6月~11月で9月がピークです。また、マダケの1日伸長量は最大121cmで、ギネスブックにも掲載されています。

竹を資源としてみたときの特徴として、生産物としての評価と竹林としての評価(落葉樹同様、地球温暖化防止の効果)があり、また、日本人は竹を抜きにしては語れない

日本文化を築いてきました（茶道、華道、日用品、工芸品など）。現在の日本の竹林が抱える問題は、水煮筍の輸入量の増加により、手入れされない竹林が増加したことによります。里山の放置と竹林拡大が生物多様性を失わせていますが、現在では 20～30 年の対応の遅れがあります。一方、されている。集成材、炭材、繊維、など新たな用途が模索されています。

高知県では、竹資源有効利用コンソーシアムとグリーン購入コンソーシアムの新たな試みを今月末に立上げ、竹の有効活用を図っていくとしています。地産地消の立場から、香川県仲南町、松山市、静岡県および福井県鯖江市等でも取組まれています。竹林への正しい理解と有効活用のために、竹林の新たな利用と里山再生を組み合わせた取り組みが今後重要になってきます。

### 「昆虫から見た人の暮らしと身近な自然」

今日の参加者の方でハチに刺されたことのある方は半数以上で、その時アレルギー症状のあった方は 1 名だけでした。ハチに刺されたことがあるということは、自然に触れている人が多い証拠です。昔は、ハチアレルギーは 10000 人に 1 人でしたが、今は 100 人に 1 人と言われています。昆虫は、日本人にとって最も身近な野生動物で、近畿地方は南北の虫たちの交差点となっています。また、クマゼミ、ナガサキアゲハが、ヒートアイランドや地球温暖化の影響を受けているとは断定できません。チョウチョウは日本で 250 種、ガは 6000 種程度です。養蜂家が用いている巣箱に、ハチは冬場 3000 匹、最大 10000 匹が棲息しています。

ゲンジボタルは、奈良では、昨年大雨で従来の 300m 下流で観察されました。ゲンジボタルはカワニナしか餌として利用しません。成虫になって、川を上流に上がって行き、橋等の障害物があれば、下流に戻る個体もあります。川辺に産卵して、孵化したら水中に落ち、カワニナを餌に成長し、春先に土手を登り柔らかい土中に潜り、サナギになって、羽化し飛び立ちます。このように川だけを守ってもゲンジボタルは、棲息できないのです。マイクロハビタット（小規模のビオトープ）が必要である。小さな環境を繋げることが重要なのです。30 年前頃から宅地開発が始まり、アシナガバチが 20 年前ごろから問題となっています。こうした例をとってみても、昆虫は、環境の変化に敏感だといえます。

### 「タンポポ調査から見た自然環境保全」

2004 年と 2005 年をかけて実施したタンポポ調査について報告します。これは、外来種と在来種のタンポポの分布を調べ、地域の環境の現状を知る調査です。タンポポを利用したのは、だれでも知っている春を代表する植物で、近畿地方に広く分布していて、外来種と在来種の比率が自然環境の指標になるからです。1980 年、1990 年および 2000 年の比較をすると、外来種の比率の高いメッシュが増加しています。泉北ニュータウンでは、開発の時期に合わせて、在来種が戻りつつあるのが判明しました。また、大阪府の各市の外来種率の変化パターンは、5 種に分類されました。在来種と外来種の交雑により、従来は、総苞外片の形で区別が簡単にできていましたが、今回の調査では花粉の形態等により、雑種タンポポの同定を行いました。

その結果、全国の他の地域に比較して交雑タンポポの個体は、少ないことがわかりました。また、在来種タンポポも復活している場合があります。ですが、宅地開発が進むと外来種が増加し、都心部の農地は分断され、在来種が絶滅します。郊外の農地は「圃場整備事業」等で、新しくできた攪乱地には外来種や雑種が進入しています。

調査を通じて自治体の開発のあり方や環境行政のあり方が見える、身近な自然に関心を持ち環境変化を詳しく知りたいという市民が増加する、生物の分布調査をすることで環境の変化がわかる、など調査の都度新しい発見があります。そして、これらが在来種のタンポポが生息できる環境を守る行動につながるのです。

### 質疑応答（主なフロアからの質問・意見）

- ・大阪湾再生行動計画などはあまり一般に知られていないのではないのでしょうか。
- ・竹に縁のある場所でイベントを企画し、竹に関心を持ってもらう機会を提供すればどうでしょうか。
- ・アシナガバチの簡単な駆除を教えてください。
- ・環境省は里地・里山の保全を2ヶ所で取組んでいるとあったが、その内容と方法を教えてください。
- ・生物などを元の環境に回復できるのでしょうか。また、期待を持てますか。
- ・環境省の外来生物法のパンフレットでは、防除と書いてあり、駆除とまでは書いていませんが、その戦略についてはどうなっていますか。
- ・コンブを植えているのは、環境学習として重要ですが、100年できれいになれば良いと説明されました。具体的な目標はあるのでしょうか。
- ・大阪湾の埋立てが13,000haと報告されましたが、今後さらに埋め立てるような計画がありますか。また、放置された場所はどうなりますか。
- ・ツキノワグマが街中に出て射殺されているようですが、北海道では共生できているようでした。このあたりについて、なにか知見をお願いします。
- ・タンポポ調査を長年実施されて、30000サンプルが集まったと聞きましたが、どのように広がって行ったのかを教えてください。

## 6. 考察

最後に、今回の企画を通して、次回以降への考察を示します。

### （1）参加団体からの声

近畿の自然を考える終了後、展示に参加したパートナーシップ団体へ感想をお願いしたところ、いくつかの団体から回答を寄せていただきました。回答はメール、またはFAXによる自由記述形式とし、今回の開催を次回以降の参考とするために、思ったままのことを自由に書いてもらいました。以下が意見です。なお、報告書に記載する関係上、どの団体の意見かをわからないようにした上で、同内容の意見はまとめ、文末の表現をそろえました。

- ・来館者用の参加団体紹介集などがなかったように思えました。
- ・団体間の交流がもうひとつ出来ませんでした。
- ・参加団体交流会を展示期間中に実施してほしかったです。展示に参加したけど、他の出展団体との関連性がどうだったかについては（私たちの）団体の方でもまだ評価できていません。
- ・参加後のネットワークづくりなどその後につながるプランが見当たらないです。継続的に発展するものでありたいと思います。
- ・搬入・搬出にうかがったきりで参加者の顔が見えていないので反省するにも、ピンとこないのが正直なところで、逆にその点が反省すべきところかもしれないです。
- ・たとえわずかの方にも問合せやご意見・ご感想をいただけるように何か工夫できたかなと思っています。たとえば、一言コメントのノート設置やプレゼント付のメールアンケート回答などを展示に盛り込めばよかったかもしれません。
- ・自然フォーラムは講演者のいいお話が聞けたので、もっと参加者が多ければ良かったです。もったいなかったと思います。講演者の発言時間が少ないと思ったので、パネラーが多かったのではないのでしょうか。

## （２）今後に向けて

近畿の自然を考えるは、きんき環境館での２回目の企画展示でした。６月に開催した「きんき環境館エコライフフェア」の課題等も踏まえながら開催しましたが、結果的にどうであったのかについて、きんき環境館の視点から記載します。今回の経験や参加団体からの声（意見・感想）を踏まえつつ、次回以降の開催へ向けて、テーマごとに方向性を示します。

### 広報と来館者数

前述のように、今回は約 6500 枚のチラシを作成し、配布・設置等を行ないました。今回はチラシの枚数もかなり多かったものの、単にきんき環境館からの郵送による広報が多かったわけではなく、生活情報ぷらざをはじめとした多くの関係を通してチラシを配布できました。これまでになかった広報手段として、大きな成果であったと考えます。また、チラシ以外でも、Web やその他で広報ツールが広がりました。費用のかからない方法として今後よりいっそうの展開を図るきっかけとなりました。

来館者は 1 日平均約 25 名と、前回のエコライフフェアに比べてかなりの伸びとなりました。今回の広報との関連でいうと、広報の拡大だけでなく、生活情報ぷらざとの共同開催の成果といえるでしょう。また、スタンプラリーによる、周辺オフィスなどからの来館者も多かったといえます。一方、自然フォーラムの参加者は予定よりも少なく、広報活動が充分だったかは課題を残しました。

以上から、展示では一般の方への普及啓発の役割をある程度果たせたといえますし、エコライフフェアよりもかなり参加者を増やすことができました。ですが、まだまだより多くの方に来てもらえるだけの広報の余地があると考えています。今後はさらに一層効果がある方法を検討しつつ、広報活動を行きたいとおもいます。

## 展示について

前回のエコライフフェアの展示の際には、館内の両側の展示が主で、来館した方の滞在時間が短いというのが課題でした。今回は環境 BOX だけでなく、中央にパネルボードを設置し、さらに廊下側のガラス面にも展示をするなど、団体数が増えたこともあり、前回よりもかなり展示の量が充実していました。展示内容は各団体の工夫等により、様々な方法で展示されていました。今回は、準備会の際に前回の展示方法を写真で紹介したこともあり、展示は比較的イメージしやすかったようです。パネルの前に設置したテーブルは団体によって、その埋まり方に差がありましたが、今回は来館者の関心を引くようなものをテーブルに置いていた団体が多かったです。

展示期間中、参加団体へは対応不要としていました。これは参加団体への負担を減らすことが目的ですが、その一方で来館者の様子がわからないなどの感想もあります。例えば、期間中に各団体 1 日程度、毎日順番に展示についていただき、それぞれの展示の前で PR するようなことがあってもいいのかもしれないと思います。今後の展示の際には検討したいと思います。

あと、参加団体と展示内容の一覧を今回は作成しませんでした。なお、生活情報ぶらざの展示一覧は、ぶらざの展示担当者が作成しておりました。きんき環境館の方では、直前まで展示内容がわからないということが主な理由でしたが、次回以降は参加団体と調整のうえ、作成していきたいと思います。あわせて、今後はどのように展示スペースをとれば、もっと賑やかになり、より展示を見てもらえる環境を作り出せるのかなど、よりよい展示の方法を今後も考えていきたいと思います。

## 自然フォーラムについて

今回の自然フォーラムは、各セクターより 5 名の方に事例報告をしていただきました。どなたも近畿の自然について考えるにはふさわしい報告をしていただき、参加者の反応もよかったのではないかと考えています。また、質疑応答でもフロアから多くの意見が出され、予定の時間を少しオーバーするくらいでした。

ただ、内容の良さに比べて、参加者は少なめに留まってしまいました。会場確保の関係から平日の 17:50~20:10 という、きんき環境館のこれまでになかった時間帯で開催したことなど、多少影響が出てしまったのかもしれませんが。時間という意味では、約 2 時間半時間で 5 名のパネラーの報告と質疑応答が時間的に少し無理があったという意見もありました。どちらにせよ、近畿の自然を考えるはきんき環境館が主催する自然をテーマにした最初のイベントですので、自然フォーラムなどで出た意見や内容を、今後どのように活かし、また、次回のイベント開催へとつなげていくか、検討が必要です。

## パートナーシップについて

今回の開催は、きんき環境館、近畿事務所、生活情報ぶらざの 3 者による開催で、3 ヶ所で同時開催することができました。開催を通して、主催者間、拠点間の連携を図るきっかけとなったのではないかと考えています。

ただ、展示に参加した団体間の連携については、課題を残す形となりました。準備会に参加した団体同士は顔を合わせていますし、今回は準備会後に、きんき環境館のパートナ

ーシップ団体による集い（交流会）を開催しました。ですが、展示期間中に開催することや、展示終了後のネットワークについては対応することができていませんでした。今後は、きんき環境館らしく、ただ展示等を行うのではなく、いかにそこからネットワーク化を図っていけるかについて取り組んでいきたいと考えています。

### **まとめにかえて**

近畿の自然を考えるは、きんき環境館では自然環境をテーマとした最初の取り組みでした。最初の取り組みとしては、展示から自然フォーラムまでかなりいろんなことができたのではないかと考えています。また、来館者等を前回の開催から比較しても右肩上がりであり、ある程度成功だったのではないかと考えています。

ただし、地球温暖化が進む中で、自然環境の果たす役割は非常に重要であり、それは自然環境をいかに調査・保全・再生していくかにつながります。きんき環境館として自然環境とどのような関わりを持っていくのか、そのためにどのような展開を行っていくのかは、これからの大きな課題として取り組んでいきたいと考えています。

# 卷末資料

# 近畿の自然を考える 準備会

開催名：近畿の自然を考える ～展示・スタンプラリー・自然フォーラム～

日時：2005年10月4日（火）～14日（金）（8日～10日を除く）

展示：10月4日（火）～7日（金）、11日（火）～14日（金） 10：00～17：30

スタンプラリー：展示と同じ

自然フォーラム：10月14日（金）17：50～20：10

\*ただし、展示は10月1日（土）に公開できるようにしてください（後で説明）

会場：きんき環境館、生活情報ふらざ、環境省近畿地方環境事務所会議室

展示：きんき環境館、生活情報ふらざ、近畿地方環境事務所会議室

スタンプラリー：きんき環境館、生活情報ふらざ、近畿地方環境事務所会議室

自然フォーラム：OMMビル2階会議室1～3

対象：一般市民、自然環境関連の自治体部署、NGO/NPO 団体、学術関係、企業関係

参加費：無料（一般来館者の参加費のことです）

主催：きんき環境館、環境省近畿地方環境事務所、大阪府

後援：国土交通省近畿地方整備局、農林水産省近畿農政局、大阪市（以上予定）

運営協力：（特活）大阪府民環境会議（OPEN）、（財）関西消費者協会

参加団体：きんき環境館パートナーシップ団体など環境問題に取り組む団体

1階：調整中（消費者団体）

5階：せいわエコ・サポーターズクラブ

（特活）総合教育研究所

大阪府ネイチャーゲーム協会

（特活）とよなか市民環境会議アジェンダ21

（社）大阪自然環境保全協会

（財）公害地域再生センター（あおぞら財団）

森と水の源流館

（順不同）

問合せ先：きんき環境館（担当：廣田）

大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル5F

TEL：06-6940-2001 FAX：06-6940-2022 E-mail：office@kankyokan.jp

## 内容

- ・展示  
フィールド（活動場所）の自然紹介  
フィールドでの活動内容  
\* フィールドの自然の規模や自然の種類（里山、河川、森、都市部など）は問いません。  
\* 1階の生活情報ぶらざでは、消費者団体による展示を、8階の環境省近畿地方環境事務所では、自然関係をはじめとした業務概要の展示を同時開催いたします。
- ・スタンプラリー  
同時開催の3ヵ所でスタンプラリーを行い、スタンプを集めた方には粗品をプレゼントします。

## 展示についての補足

- ・環境省の近畿地区環境対策調査官事務所と近畿地区自然保護事務所は統合し、10月1日（土）より、環境省の近畿地方環境事務所となります。  
10月1日には、環境省の事務所の開所に伴って、多くの方が来賓にこられる可能性があります。その際、来賓の方にも5階の展示を見ていただくことを想定しています。そのため、1階と協働した一般公開は4日（火）からですが、1日（土）までにセッティングしていただきますようお願いいたします。なお、今回の出展に伴う出展補助費用は、開所の来賓見学も兼ねるということで費用計上されておりますので、ご理解ください。

## 広報（チラシ）

- ・チラシ  
チラシを作成し、その他のきんき環境館のその他の広報物と合わせて、関係各所に郵送いたします。  
(出展団体には別途早めに多くにお渡ししますので、団体からも各方面へ配布してください。)  
同時開催の生活情報ぶらざや環境省近畿地方環境事務所などのネットワーク、後援先のネットワークなどを利用して、チラシ等の配布による広報をしていただきます。
- ・WEB  
きんき環境館のホームページに掲載します。  
地球環境パートナーシッププラザ（GEIC）のメールマガジンに掲載します。  
環境らしんばん（環境情報データベース）に記事を掲載します。
- ・その他  
各出展団体で出展することなどを独自に宣伝してください（チラシ到着後から可です）。

## 展示スペース

- ・館内両側のパネル（上の段と真ん中の段の計48枚を予定）を利用し、両側のパネルの前にはテーブルを設置します。
- ・スペースの中央にはパネルボード2枚とテーブルを設置し、両面に展示します。

- ・団体ごとのスペースは準備会当日に相談して行いますが、各団体とも両側のパネルを有効に活用して展示してください（有効活用しにくい団体は中央のパネルボードを利用してください）。
- ・電源を必要とされる団体は場所を考慮しますので、申し出てください。ただし、その際も延長コードなどを各団体でご用意ください。

## パネルについて

- ・パネル出力：両側のパネル出力はきんき環境館で行うこともできます。  
出力については下記の値段となります。
- ・パネルサイズ 大：たて632mm×よこ558mm（出力：1枚¥3000-）  
小：たて587mm×よこ558mm（出力：1枚¥3000-）  
A1：たて841mm×よこ594mm（出力：1枚¥4000-）

### <参考>

A1サイズ：たて841mm×よこ594mm  
A2サイズ：たて594mm×よこ420mm  
B2サイズ：たて728mm×よこ515mm

## 展示の搬入・搬出

- ・搬入：展示するパネル、物品等はきんき環境館の開館中（火～土の10：00～19：00）であれば、事前に持ち込みや宅急便（元払い）での送付も可能です。  
車で搬入される場合は、OMMビル駐車場をご利用ください。駐車料金は15分/100円（8：00～20：00）で、24時間最大2,500円です。  
駐車場からの搬入で台車が必要な場合は、きんき環境館のものを利用してください。その際は、車を駐車場に止めて、先に台車を取りに来てください。
- ・設置：以下の日時のうち、ご都合のいい時間に設置しに来てください。  
9月28日（水）10：30～19：00  
29日（木）10：30～19：00  
30日（金）10：30～19：00
- ・片付け：以下の日時のうち、ご都合のいい時間に搬出しに来てください。  
ただし、スペース利用等の関係で、こちらで事前に展示物を取り外すことがあります。  
10月15日（土）10：30～19：00  
18日（火）10：30～19：00  
19日（水）10：30～13：00
- ・搬出：展示していたパネルや物品等は、事情がある場合、一時的に預かることも可能です。  
また、着払いで宅急便を発送することも可能です。

## 費用の支払い

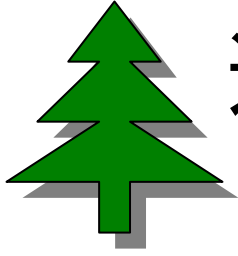
- ・ 出展補助として：1団体 ￥17,000 -  
パネル作成、パネル出力、交通費、駐車場代、宅急便代などの  
出展に関する経費の補助として支払います。
- \* 費用は展示片付け時にお支払いしますので、片付け時には担当者（受け取られる方）の印鑑をご持参ください。

## 自然フォーラムについて

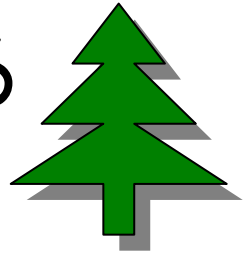
10月14日（金）17：50～20：10に OMM ビル2階会議室1～3で、タイトル同名の自然フォーラムを開催します（定員200名、申込制）

5名のパネラーからそれぞれ近畿の自然について事例報告をしていただき、そのあとに質疑応答を行なう予定です。

自然フォーラムは展示等とセットでチラシを作成します。詳細についてはチラシをご覧ください、ぜひこちらにもご参加ください。



# 近畿の自然を考える



～ 展示・スタンプラリー～

10月4日(火)～14日(金) 10:00～17:30

(8日(土)～10日(祝)を除く)

## OMMビル (地下鉄谷町線、京阪電鉄「天満橋」駅下車すぐ)

	環境省近畿地方環境事務所	出展団体
8階	近畿の国立公園での業務概要紹介や、近畿の自然の概況紹介、近畿地方環境事務所の事業紹介などを行います	・環境省近畿地方環境事務所
5階	環境省 きんき環境館	・きんき環境館パートナーシップ団体 (NGO/NPO 団体など) ・森と水の源流館
	きんき環境館関係団体による自然の紹介と各団体の活動などについての展示紹介を行います	
1階	生活情報ぷらざ	・大阪府内の消費者団体
	消費者団体による生活者の視点から、自然や環境についての展示紹介を行います	

ビル内の移動は中央エレベーターをご利用ください

### スタンプラリー

スタンプを集めると、エコグッズをプレゼント!  
(先着200名・予定)

主催：環境省きんき環境館、環境省近畿地方環境事務所、  
大阪府消費生活センター

後援：国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所  
農林水産省近畿農政局

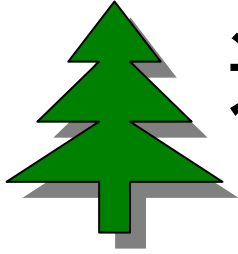
運営協力：(特活)大阪府民環境会議 (OPEN) (財)関西消費者協会

お問合せ：環境省 きんき環境館

大阪市中央区大手前 1-7-31 OMMビル 5F

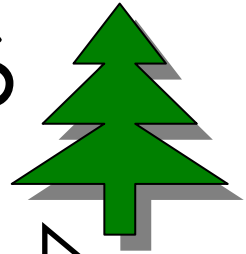
TEL：06-6940-2001 FAX：06-6940-2022

E-mail：office@kankyokan.jp



# 近畿の自然を考える

## ～ 自然フォーラム～



いろいろな立場の方から近畿の自然についてお話いただき、各視点から近畿地域の自然の現状を明らかにしてもらいます。報告後には、フロアとパネラーでの質疑応答を通して、これからの近畿地域の自然のあり方について考えます。

10月14日(金) 17:50～20:10 (17:30 開場)

OMMビル 2階会議室1～3 (地下鉄谷町線、京阪電鉄「天満橋」駅下車)

### <プログラム>

#### 事例報告

- ・「近畿地方における自然保護行政について(仮)」環境省近畿地方環境事務所
- ・「大阪湾の環境について」  
国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所 海の再生環境技術センター
- ・「竹林の現状と里山再生」京都大学大学院地球環境学堂 助教授 柴田 昌三 氏
- ・「昆虫から見た人の暮らしと身近な自然」橿原市昆虫館 日比 伸子 氏
- ・「タンポポ調査から見た自然環境保全(仮)」(社)大阪自然環境保全協会

#### 質疑応答

参加費：無料 定員：200名

申込：申込用紙の内容をメール、またはFAXにて申込んでください

TEL：06-6940-2001 FAX：06-6940-2022

E-mail：office@kankyokan.jp

### 近畿の自然を考える ～ 自然フォーラム～ 申込用紙

1. 氏名			
2. 所属			
3. 住所			
4. TEL		FAX	
5. E-mail			

## トピックス

### 近畿の自然を考える

～自然フォーラム・展示・スタンプラリー～

府消費生活センターでは、環境省、きんき環境館との共催で「近畿の自然を考える」をテーマに、日ごろから環境問題に関する調査・研究活動等を行っている消費者団体によるパネル展示を行います。

きんき環境館、近畿地方環境事務所でのNPO団体などによる近畿の自然についての展示のほか、自然フォーラムでは、事例報告から近畿の自然の現状を把握し、フロアとパネラーで意見交換を行います。

ぜひこの機会に、自然との関わりや環境問題について考えてみませんか。

■パネル展示: 10月4日(火)～14日(金) (8～10日を除く)  
10:00～17:30

場 所: 生活情報ぷらざ、きんき環境館、  
環境省近畿地方環境事務所

いずれも  
参加費無料

■フォーラム: 10月14日(金)  
17:50～20:10 (17:30開場)

場 所: OMMビル 2階会議室

事例報告者: 京都大学大学院地球環境学堂 柴田 昌三助教授 ほか

「美しい暮らし」10月号 (No.167)

展 覧 作 品 の 朝 夕

ん、花入れなど約90点を  
展示販売。  
近畿の自然を考える  
自然フォーラム 14日  
(金) 17時50分、中央区  
大手前1、OMMビル2  
階会議室。環境省や国土  
交通省の担当者や研究  
者、市民団体メンバーが、  
大阪湾の環境や里山再生  
など、近畿の自然環境に

ついて報告し、より良い  
保全の方策を考える。無  
料、定員200人。希望  
者は、環境省・きんき環  
境館にメール (office  
@kankyokan.jp) か、  
ファクス (06・6940  
・2022) で申し込む。  
講演会「癒す庭」病院、  
ケアの現場における自然  
の力」 16日(日) 13時

10月9日(日) 毎日新聞(朝刊)